

「超上流工程における要求分析への科学的アプローチ」研究会

第4回勉強会のご案内

2015年11月30日

情報システム学会同上研究会発

1. 日時：2015年12月14日（月）午後2時～午後5時

2. 場所：株式会社プライド会議室

■場所

株式会社プライド 新オフィス

★以下の住所に移転しました。

東京都千代田五番町12番地1

番町会館3F

TEL：03-3239-5431（移転前と同じ）

FAX：03-3239-5432（移転前と同じ）

■アクセス

<http://www.naska.co.jp/access/>

JR四ツ谷、JR市ヶ谷から共に徒歩5分

3階エレベータ前の株式会社インフォメーション・ディベロプメント社総合受付 左手奥「303会議室」です。

3. 発表

第4回は、「形式手法」による要求仕様を取り上げます。このアプローチは、著名なTPモニタであるCICSの開発で成功を収め、わが国ではFeliCaの仕様記述にも使われていますが、取っ付きの悪さもあって一般の理解は得られていません。しかし上手なユーザインタフェースを開発して取っ付きの悪い部分を隠蔽すれば、要求分析の科学化に大きく貢献できる道が拓ける可能性があるというのが、研究会主査の見立てです。

なお今回は、発表は1名のみです。そのあと懇親会（有志）となります。

高木徹氏（千葉工業大学）

タイトル「形式的アプローチによるData Processing Systemの設計」

問題解決を行う1つの方法論として、形式的アプローチによる問題解決の方法論に関する研究が進められております。このアプローチでは対象となるシステムを、①問題解決のためのゴール探索の処理を扱う問題解決システムと、②データ処理や情報処理の取り扱いを中心とした情報システムの構築の組み合わせとして理解する。ここでは、後者（データ処理システム）を対象として、形式的アプローチの視点からデータの取り扱いについて具体的な例を導入しながら説明を行う。

具体的な仕様記述としては、この分野の泰斗である高原康彦らの研究グループが開発してきたCAST（Computer Acceptable Set Theory）言語により、ユーザが数理論理と素朴集合論を言語としてモデルを記述し、その上でCAST言語へコンパイルすることでそのモデルが実行され、内容の妥当性の検証に使われることになる。

参加費：無料

★研究会の後、有志により懇親会を催します（費用は実費）。

研究会の参加希望の方は以下のメールアドレスにメールをください。

nakanishi-m@nagoya-ku.ac.jp 中西昌武（名古屋経済大学）宛て

以上